

学校司書実践事例集

県内小・中学校の学校図書館における 学校司書の配置・活用を



平成27年4月1日に改正された学校図書館法では、第六条において「学校には、（中略）専ら学校図書館の職務に従事する職員（「学校司書」）を置くよう努めなければならない。」と定められています。現在、県内の小・中学校では、下表のように学校司書の配置が進んでいない状況です。

〈奈良県内の学校司書配置状況〉

	公立小学校	公立中学校
奈良県	18.4%	18.3%
全国	59.3%	57.3%

（平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」より）

本リーフレットでは、県内小・中学校における学校司書の勤務について、また、児童生徒の読書活動や学習活動の推進のために学校司書を効果的に活用している事例について紹介しています。これらの事例を参考に、県内小・中学校において、学校司書の配置を一層推進し、学校長・司書教諭をはじめ全ての教職員の協力により、学校図書館の充実と児童生徒の読書活動・学習活動の推進を図っていただくようお願いします。



図書委員会や教員と連携し、「読書活動」支援に活躍！

生駒市立真弓小学校

児童数	623名	配置開始時期	平成23年4月
学級数	24学級	勤務形態	非常勤（月・水・木）
教職員数	33名	勤務校数	1校勤務
司書教諭の発令	有 無	勤務時間等	8時30分～16時30分 （8時間00分）

取組内容・特色等

◆配置の経緯

生駒市では平成21年度から学校司書の配置が徐々に始まり、平成23年度には、真弓小学校に週1日の勤務で学校司書が配置された。当時は有償ボランティアとしてであったが、平成26年度より臨時職員となった。勤務日数は、平成26年度から週に2日、平成29年度から週に3日となっている。



◆主な業務

- ・ 図書の整理（選書、購入、貸出・返却）
- ・ 環境整備（書架整理、修理等）
- ・ 児童の委員会活動補助
- ・ 課題図書の展示
- ・ 図書給食ポスター作成・掲示

◆取組における工夫

図書委員（5・6年生）が学校司書と協力し、1年生が喜びそうな図書や紙芝居を選んで読み聞かせの練習をした上で、1年生に読み聞かせを行った。互いの読書への興味関心が広がったと考えている。



◆配置による効果

- ・ 図書室内の環境整備や、学校司書による読み聞かせ等により、多くの児童が図書室を利用するようになった。
- ・ 「本読もキャンペーン」の実施や特設展示コーナー「本はともだち」を設置することなどを通して、子どもたちの読書に対する意欲を高めることができた。

課題・今後の方向性

- ・ 学校司書と司書教諭をはじめとする全教員との連携を密にすることで、選書や読み聞かせ等に生かすことができた。今後ともコミュニケーションを大切にしていける必要があると考えている。
- ・ 他校の学校司書と情報交換したり、交流の場を設定したりすることが必要だと考えている。

「読書活動」「学習指導」「心の居場所」の支援に活躍！

生駒市立上中学校

生徒数	622名	配置開始時期	平成23年4月
学級数	21学級	勤務形態	非常勤（月・水・木）
教職員数	46名	勤務校数	1校勤務
司書教諭の発令	有 無	勤務時間等	8時25分～16時25分 （8時間00分）

取組内容・特色等

◆配置の経緯

生駒市では平成21年度から学校司書の配置が徐々に始まり、平成23年度には、上中学校に週1日の勤務で学校司書が配置された。当時は有償ボランティアとしてであったが、平成26年度より臨時職員となった。勤務日数は、平成26年度から週に2日、平成29年度から週に3日となっている。



◆主な業務

- 資料の選定、収集、整理、保存、廃棄
- カウンター業務、特集展示、図書室だよりの発行
- 図書委員や保護者ボランティアとの活動
- 図書館利用指導、読書指導
- 公共図書館との連携 など

◆取組における工夫

- 学習や学校行事に合わせた資料収集、特集展示
- ビブリオバトルやブックトークを利用した読書指導
- 図書委員と協力したイベントの実施
- 新聞の切り抜き（世界のニュース、奈良のニュース）の展示



◆配置による効果

- 貸出冊数は年々増加し、平成25年度と比較して平成29年度は3.5倍となっている。
- 生徒からの質問への対応、探している資料の提供が迅速にでき、生徒と本とを確実につなぐことができている。
- 学校司書、司書教諭、図書委員、保護者ボランティアが連携し学校図書館の運営を行うことにより、学校図書館の意義、役割等の理解につながり、教員の利用も増えている。

課題・今後の方向性

学校の教育指導計画や生徒の理解に努めるため、学校司書も職員の一員として職員会議、研修等に積極的に参加することが望まれる。また、資料の修理や廃棄等、比較的目立たない業務が滞りがちになるため、図書委員や保護者ボランティアとの連携が、今後一層必要である。生徒と本とを、確実に・迅速につなぎ、読書指導や情報活用指導を一層進めるためには、学校司書の常勤が望ましいと考えている。

いつでも本が読める環境づくり・積極的な読書活動推進に活躍！

葛城市立當麻小学校

児童数	283名	配置開始時期	平成16年10月
学級数	16学級	勤務形態	非常勤（月～金）
教職員数	25名	勤務校数	1校勤務
司書教諭の発令	○ 有 無	勤務時間等	9時30分～15時30分 （5時間00分）

取組内容・特色等

◆配置の経緯

平成9年の学校図書館法改正により、平成15年4月1日以降、司書教諭を12学級以上の学校に設置する義務が生じた。その動きに伴い、葛城市では、市内各校に学校司書を積極的に配置することが検討された。その結果、図書館司書資格保持者を中心に学校司書が「図書館補助員」として市内全校に配置され、児童生徒の読書活動等の向上に大いに貢献している。



◆主な業務

- ・バーコードによる蔵書管理と点検
- ・新刊本購入リストアップと廃棄処理
- ・図書だよりでの本の紹介と「星だより」の作成
- ・全学級での図書の時間の読み聞かせと本の紹介

◆取組における工夫

- ・新聞を毎日読める環境づくり
- ・読書通帳と表彰による読書推進
- ・ブックラリーやクイズラリー、「読書の木」などのイベントを開催
- ・全学級に学校図書館の本を配置し、朝読書にも活用している。定期的に本の交換も行っている。

◆配置による効果

- ・蔵書は1万冊以上にのぼるが、蔵書管理が確実に配架が行き届いている。
- ・レファレンスサービスが行き届いており、借りたい本をすぐ見つけることができる。
- ・配架案内地図「図書室マップ」や「図書だより」で情報を得ることができる。
- ・「テーマ別本展示」や「しおり・ポップ作成」など児童にとって魅力的なイベントを多数用意し、そのため読書活動が活発に行われている。
- ・教科書に載っている本を学校図書館でそろえており、「教科学習」や「調べ学習」に必要な本も複数配置することができている。

課題・今後の方向性

本好きな児童が多く、年間の読書量は1人当たり35冊と多い一方、児童に読ませたい名作と実際に児童が読む本とが一致していない。今後とも、「おすすめの本」を読書通帳に明記したり学校図書館に一覧表を掲示したりすることで、読書活動をより活発にしていきたい。

子どもたちの「図書に親しめる環境の場」が広がりました！

葛城市立白鳳中学校

生徒数	467名	配置開始時期	平成16年10月
学級数	18学級	勤務形態	非常勤（月～金）
教職員数	36名	勤務校数	1校勤務
司書教諭の発令	有 無	勤務時間等	12時00分～17時00分 （5時間00分）

取組内容・特色等

◆配置の経緯

平成9年の学校図書館法改正により、平成15年4月1日以降、司書教諭を12学級以上の学校に設置する義務が生じた。その動きに伴い、葛城市では、市内各校に学校司書を積極的に配置することが検討された。その結果、図書館司書資格保持者を中心に学校司書が「図書館補助員」として市内全校に配置され、児童生徒の読書活動等の向上に大いに貢献している。



◆主な業務

- ・ 図書の整理
（選書、受入、貸出、返却、整備等）
- ・ 図書だよりの発行
- ・ 館内装飾、資料展示
- ・ 図書委員活動支援
- ・ 入学時のオリエンテーション

◆取組における工夫

- ・ 総合的な学習の時間等の取組において、調べ学習に必要な資料の準備や学習支援を行っている。
- ・ 昼休みや放課後、図書委員会の生徒が中心となって本の貸出や返却などを行い、図書館運営に協力している。



◆配置による効果

- ・ 入学時のオリエンテーションの実施により、図書館の利用ルール、マナーを確認し利用しやすい環境づくりを促すことができた。
- ・ 生徒が学校図書館を利用できる環境を整備したり、本の貸出予約を行ったりしているため、利用人数や貸出冊数が増加した。
- ・ 朝読書のための図書を学校図書館で選ぶ生徒が増加した。
- ・ 図書のデータベース化が一層進み、所蔵状況や貸出状況が一目で分かるようになった。

課題・今後の方向性

- ・ 司書教諭や図書委員会の担当教員との打合せを行う時間を確保する必要がある。
- ・ 生徒の実態を把握し、それに応じた学校図書館全体計画に改善していく必要がある。
- ・ 今後とも、図書委員会を中心に学校図書館の利用啓発ポスターや本の紹介等を積極的に行うなど、学校図書館に親しみ、読書に興味をもちにくい生徒も来室できるような学校図書館の環境づくりを目指す。

「児童の読書活動」「授業での学校図書館活用」の推進に貢献！

平群町立平群北小学校

児童数	323名	配置開始時期	平成24年10月
学級数	14学級	勤務形態	常勤（月～金）
教職員数	29名	勤務校数	1校勤務
司書教諭の発令	有 無	勤務時間等	8時00分～16時45分 (8時間00分)

取組内容・特色等

◆配置の経緯

本校では、平成21、22年度に「手の届く場所に読みたい本を」と考え、学年文庫の整備を行った。また、平群町において、平成23、24年度に、「ひかり交付金」を活用し町内各校の学校図書館の整備事業が実施され、学校図書館に図書館システムが導入された。学校司書は、平成24年10月から配置され、学校図書館の活用に取り組んでいる。



◆主な業務

- ・ 図書の貸出、返却
- ・ 学校図書館を使った授業の支援
- ・ 授業で使う図書の用意
- ・ 委員会、クラブ活動の支援
- ・ オリエンテーション、ブックトーク など

◆取組における工夫

- ・ 学校図書館利用計画や学校図書館活用年間計画の作成
- ・ 各学年の教科書の確認と、各教科等の授業に必要な図書の購入及び準備
- ・ 児童からリクエストのあった図書を迅速に購入し、読みたい本が確実に手元に届くようにしている。



◆配置による効果

- ・ 登校から下校まで、一日中いつでも学校図書館を利用できるようになった。また、読みたい本が学校図書館にあるかどうかをすぐに調べて、予約やリクエストができるようになった。
- ・ 授業で必要な本がすぐに用意でき、公共図書館の本もあわせて授業で活用できるようになった。
- ・ 学校司書がいることにより、疑問に思ったことをすぐに調べることができ、分からないことも相談できるようになった。

課題・今後の方向性

- ・ オリエンテーションを通じて、学校図書館の本の配置や分類に対する理解が進んできた。今後、それを生かして授業における調べ学習につなげていけるようにしたい。
- ・ 学習指導要領や教科書の改訂に伴い、古くなった本を廃棄し新しい本に交換する作業を進めるなど、学校図書館の本を「今、利用できるもの」にする必要がある。
- ・ 学校の中にある図書館として、児童の憩いの場となるようにしていきたい。

「読書活動」や「教科学習」の支援に活躍！

五條市立北宇智小学校

児童数	128名	配置開始時期	平成29年4月
学級数	10学級	勤務形態	非常勤（月・木）
教職員数	18名	勤務校数	2校勤務
司書教諭の発令	有 無	勤務時間等	9時30分～16時30分 （6時間00分）

取組内容・特色等

◆配置の経緯

五條市では、平成27年度から市内各学校の学校司書の配置が開始された。北宇智小学校では、平成29年度に「自尊感情の向上」「読書活動」「自主学習」を柱とする学力向上の取組を進めてきた。このとき重要な役割を果たしたのが、五條市の「読書活動活性化事業」による公共図書館からの学校司書の派遣である。この取組が、学校と公共図書館が連携して学校図書館の機能を大きく向上させることにつながった。



◆主な業務

- ・ 図書管理、運営
- ・ 読書行事を開催するための支援
- ・ 教科学習の支援（並行読書（教科書教材等と関連した本を読むこと）・調べ学習など）
- ・ アクティブリーディングにつながる選書

◆取組における工夫

- ・ 読書環境の充実（学校図書館の整備）
- ・ 「絵本の広場」の設置（本を見て読んで楽しむ）
- ・ 「読書通帳」の作成（読んだ本の記録を残す）
- ・ ポップづくり、ビブリアバトルの実施
- ・ 読書週間（年3回）の設定



◆配置による効果

- ・ 学校図書館の環境整備が進み、本を探しやすくなった。
- ・ 教科学習、総合的な学習の時間における並行読書や、調べ学習の活動が充実した。
- ・ 学校司書の支援により、読書に関連する行事の内容に広がり生まれ、児童の活動が充実した。
- ・ 本の選書や、本に親しむ空間づくりに大きな効果があった。

課題・今後の方向性

読書活動を各教科等の授業に計画的に取り入れることで、児童が本を手取る機会が増えた。また、学校図書館に足を運ぶことも多くなり、学校図書館の利用を活性化させることができた。学校司書の配置が、読書の活性化を進め、学習活動を充実させ、学力向上の取組を大きく進めることにつながった。今後も、公共図書館との連携を進めながら、本を手取るよさを教員が再認識し、読書する楽しさや喜びを児童や家庭にさらに伝えていきたい。